

一貫生産体制と研究開発で顧客に応え 培った技術力を多方面に展開

1923年に創業、1961年から放射性物質用グローブボックス等の原子力用設備の設計・製作へと業務の範囲を広げてきた。近年は原子力分野で培った経験をもとに、医療や次世代エネルギー分野へと事業を拡大している。

研究開発も積極的に取り組んでおり、長年培ってきたグローブボックスの中核技術である「隔離機能」を発展させ、酸素や水分の無いドライグローブボックスや医療用アイソレータの製造等へ展開している。

- | | | | |
|----------|---|--------|---------|
| ● 所在地 | 茨城県水戸市六反田町1279-1 | ● 設立 | 1923年 |
| ● 電話/FAX | 029-297-1005 / 029-297-1008 | ● 資本金 | 1,500万円 |
| ● URL | https://ysd-k.co.jp/ | ● 従業員数 | 60人 |
| ● 代表者 | 代表取締役社長 吉田陽子
(写真は後継者の米川周佑取締役) | | |



産学官の共同開発で製品の安全性向上・高付加価値化

通常、グローブボックス内の洗浄は布紙等を用いた洗浄であり、使用した物も放射性廃棄物となることから、洗浄における廃棄物を可能な限り減らすため、ボックス内の付着物抑制、自動洗浄といった技術を、産業技術総合研究所・茨城大学・茨城産業技術イノベーションセンターと共同開発している。

この技術は金属積層造形技術や医薬・バイオ分野でも応用可能であり、顧客の要望に応じた高付加価値なグローブボックス開発に繋がっている。



高付加価値なグローブボックス

一貫生産体制で多様なニーズに応え、ITで生産を見える化

自社内に設計・機械加工・製缶溶接の三部門を有し、顧客の要求によって仕様が大きく異なるグローブボックスにおいても、顧客の要望を最大限反映した製作が可能。

大型クレーン、大型機械加工設備、三次元測定機を導入した新工場の設立により、生産能力を従来の2倍に引き上げ、強みである設計・組立・試験・搬入までを一貫して担える体制をさらに強化。新工場内にはWi-Fi環境も整え、設備の稼働率や生産管理工程をリアルタイムで把握し、従業員全体で共有することで生産効率を向上。



第二工場の製缶溶接工程

社員間のコミュニケーション力の向上と技術育成を両立

新入社員には半年間かけて全部署をローテーションさせ、配属希望部署を再確認。また、社内メンター制度を整え、配属部署以外からメンターを付けることで、同じ部署では相談できない悩み等を共有する場を設定。

免許・資格試験は希望があれば、会社支給で受験することを奨励。従業員約60人に対し技術有資格者は延べ件数268件。

これらの取組により、社員の貢献意欲向上、スキルアップを図る。



合言葉は「明るく・楽しく・元氣良く」